

木造住宅・建築物等の整備推進に関する調査・普及・技術基盤強化 成果報告書

事業の名称	木造住宅・建築物等の整備推進に関する調査・普及を行う事業
事業者情報	事業者名：一般社団法人 工務店サポートセンター 事業担当者名：坂口 岳 連絡先：
補助事業の区分	木造住宅・建築物等の整備推進に関する ① 査を行う事業 ②普及を行う事業 ③技術基盤強化を行う事業 以上の①から③の中から該当するものを選択し、○をつけて下さい。）
1. 事業の概要	長期優良住宅の普及に向けて、技術的な認定を取得する設計者の育成が最重要課題となっている。この課題を解決するために、当センターでは全国各地で研修会を行い地域のリーダーとなる設計者の育成を進め、工務店個々での長期優良住宅の取り組みが可能な環境をつくることを目的に下記の事業を計画した。 ① 長期優良住宅の設計における地域指導者の育成と全国研修会の実施 ・計2回における、地域指導者育成研修会の実施 1回目：「長期優良ちきゆう住宅の基礎」2回目：「申請・構造・断熱・維持管理」の実施 - 場所：東京 期間：1回目（1日）2回目（3日）を計画 ・地域指導者による、全国長期優良住宅設計者実務セミナーの実施 - 場所：対象は全国30拠点を計画 講師：指導者育成研修会＋事務局 ・研修会に使用する研修ツールの整備と作成 - 印刷物：申請・構造・断熱・維持管理の各資料の作成 - 住宅履歴情報の整備/保守・ツールの提供/ホームページを使った情報の発信と募集 ② ジャパン・ホームショーにおける、実際の技術を活用した実物モデルの展示とセミナーの実施 長期優良住宅の施行に向けた技術情報の公開を目的としたジャパン・ホームショー2010での実モデルの公開や技術セミナーを行い来場者に対して広く普及活動を行い、参加者・セミナー内容等の報告書をまとめる 地域の中心となるリーダーを育成し、地域の設計サポートを行える設計士の体制を整備することで、長期優良住宅の技術的審査の設計を行う事の出来る設計チームと地域工務店が複数協力し合う事が出来る環境ができる。これにより、地域工務店の長期優良住宅の設計に関する不安を取り除き、消費者に対して情報の提供・提案を行う枷を外すことが出来る環境を構築する事を目的とした。

※本報告書は各ページ毎に1つの項目を記載することとし、全3ページとする。なお、本報告書以外にも別添の資料がある場合は2枚を限度に本報告書に添付すること。

事業の名称	木造住宅・建築物等の整備推進に関する調査・普及を行う事業
2. 事業で得られた成果 【長期優良住宅の設計における地域指導者の育成と全国研修会の実施】＊講習会実施一覧を別紙添付 ・長期優良ちきゅう住宅の設計研修会の実施 長期優良ちきゅう住宅の仕様マニュアルを基に、全国 か所で研修会を実施した。 研修会は、この仕様を理解し各地での取り組みを強化すべく基礎的なことから応用まで広い範囲にわたって行った。 ・「JBN・長期ちきゅう住宅国産材モデル型式認定利用講習会」の実施 昨年度、当センターにて取得した長期優良住宅の型式認定（Ⅳ地域限定）を活用して講習会を実施した。5 か所（東京・名古屋・大阪・広島・福岡）で 400 名の計画であったが、受講希望者が殺到し 1,000 名を超えたため、急遽会場の拡大・東京での追加開催を行った。 今講習会では、工務店や設計事務所に広く活用を進めるために、主催：工務店サポートセンター、協力：全建連・全建総連として、組織の枠を超えた研修会が実施出来た。 講習会では、主に「構造等級 2 の確保」「温熱等級 4 の確保」「維持管理等級 3 の確保」「劣化等級 3 の確保」「長期優良住宅の技術的審査の申請」について、実際の設計に関する実務の研修を行った。 参加者の多くが、長時間にもかかわらず真面目に受講していたが、自社での復習・自習が行える環境を作るべく、講習内容を撮影し自習可能な DVD を急遽作成した。 【ジャパン・ホームショーにおける、実際の技術を活用した実物モデルの展示とセミナーの実施】 長期優良住宅の施行に向けた技術情報の公開を目的として、ジャパン・ホームショー2010 で 実モデルの公開や技術セミナーを行い来場者に対して広く普及活動を行った。 今年度は、高齢者対応の増改築モデル・手刻みを活用した軸組構法のモデル・省令準耐火仕様に対応したモデルの展示を行い、上記にプラスして住宅履歴・長期優良住宅への取り組みに関連したブースセミナーを実施した。 11 月 17 日～19 日までの 3 日間での当ブースへの来場者は 7,000 名を超える来場者となった。 ＊上記事業に併せ、必要となる各資料・ツールの作成をお鯉研修会等で活用した。	

※本報告書は各ページ毎に 1 つの項目を記載することとし、全 3 ページとする。なお、本報告書以外にも別添の資料がある場合は 2 枚を限度に本報告書に添付すること。

事業の名称	木造住宅・建築物等の整備推進に関する調査・普及を行う事業
-------	------------------------------

3. 今後の展望及び成果の普及方法

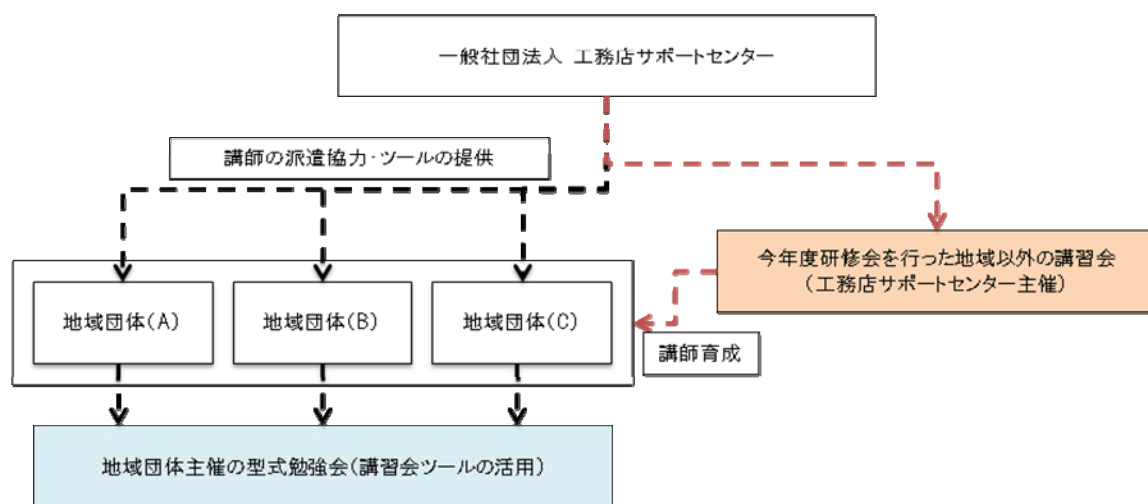
型式認定の取得に基づいて、長期優良住宅の技術的審査の認定取得に向けた実務講習会を行った結果当センターでの想定を大幅に超える参加要望があった。これは、型式と銘打った講習会であったために容易に認定がとれると勘違いした参加者もいたが、裏返すと長期優良住宅の認定取得に関する設計に工務店がいかに苦勞しているかを表すものと考えられる。

この型式は、プレカットを活用し仕様設計によるものであり長期優良住宅の認定取得の「初級編」として位置付け、各地で講習会の実施が行える体制をつくっていく。

当センターでは、手刻みを使った「改良軸組みの長期優良住宅」の認定取得を行っているが、こちらは「設計」と「施工」の2つの研修が必要な「応用編」として講習会を行っていく。

プレカットを活用した「初級編」に関しては、今年度作成した研修ツール「研修DVD」を活用して各地域のサポート拠点での講習会が実施できるよう支援をしていく。

また、当センターより講師を派遣して各地での講習会の実施を行う事としていく。



【講習会実施イメージ（案）】

ジャパン・ホームショーにおける、実際の技術を活用した実物モデルの展示やセミナーは工務店にとって新しい技術と知識の取得の意欲を触発する場として非常に有効となっている。

今や、来場者が長期優良住宅への取り組みの対処の確認や建材情報を取得する場として欠かせなくなっている。

次年度以降も情報発信の場として、この取り組みを継続して行うものとしたい。